

神戸支部近狀通信

西須磨關守畔 改發香塢

十月十三日より十一月十三日までの間で、星の見えて居つた夜は僅に七八夜だけでありました。星の寫眞を撮り得る様な眞の晴夜は僅々三夜よりありませんでした。吾々星に憧れて居るもの等にしてみれば、不幸之上もありません。昨年の此の期間中に於ける私の天氣記錄によりますと、之の二倍位の日数だけ星を見得た夜があつた事を記録されて居ます。

何んぞ今年はいやな歳柄ではありませんか。従つて望遠鏡を覗きに來た人は、非常に少數でありました。

本月「十一月」の支部例會には、山本一清先生と森川光郎理學士が御出席下さる事になりましたので、之れは吾々少數の者が私すべきものでないと思ひ、此の例會を講演會に改めて、擴く一般に公告をしました。來聽者一百二十三名でありました。山本先生の御盛名を記しての廣告にも拘はらず、神戸市として、之の少數の人士より、衆め得なかつた事は、廣告の範圍が狭かつた事と、小生の微力の致す處と、深く慚愧して居ます。森川理學士が「太陽研究の近狀」、山本一清博士が「木星の話」と云ふ題で、夫々幻燈應用御講演がありました。引續いて實地觀測を爲し、全く解散したのは十二時近くでありました。聽衆に智識階級の人士が多かつたので、森川理學士の比較的六ヶ數い講演も熱心に耳を傾けて聽き入つて居たには、悦ばしく感じました。山本先生が卑近な適切な例を用ひて、深遠なる學理を、何人にも理解爲し易い様に御講演があつたから、聽衆の總てが満足して居た様であります。

實地觀測も容易に得難き好機會で、木星の第一衛星の影、經過、第二衛星の掩蔽出現等の現象を見得る時刻でしたが、少々薄雲の爲めに充分な觀測は出来なかつたが、何れも熱心觀望をされて、満足氣であつた事は、私にしても誠に悦ばしい事でありました。